

一般質問通告書

No.1

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

平成29年8月22日
東村山市議会議長 様

議席番号 10番
質問者 村山 淳子

記

番号	質問の項目と要旨
1.	<p>前川流域の溢水対策をどう進めるのか</p> <p>近年、線状降水帯の発生等で集中豪雨となり大きな被害が全国各地で出ています。昨年は、当市でも台風9号によって多くの浸水被害が出てしまいました。</p> <p>前川の溢水対策について、これまでも一般質問で取り上げてきました。この間に河床の掘り下げ、雨水浸透施設設置の調査、浚渫が実施されました。また、大雨の影響で、崩れた護岸の改修工事等も随時実施されています。しかしながら、抜本的な解決には、時間も費用もかかるのが現状です。</p> <p>前川流域の溢水対策を今後どう進めるのか、以下伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 近年の前川溢水による被害状況。 ② これまでに実施してきた対策と効果、継続中の対策があれば進捗状況。 ③ 公道等に雨水貯留浸透施設の設置が適した場所は、他にはないのか。 ④ 雨水の敷地内処理を基本とした場合、広い敷地の施設等から前川に大量の雨水が流れ込んでいる場合、抑制することは可能か。 ⑤ 徳蔵寺橋は、橋脚の部分が川幅を狭めてボトルネックになっている。これも浸水被害の要因となっていないか。その場合、どんな解消策があるか。 ⑥ 掘り下げできない場所は、どんな理由か。掘り下げできない場所は、浚渫で対応しているが、浚渫を実施する判断基準は何か。浚渫を定期的に行う必要がある場所はどこか。 ⑦ 近年の浚渫費用。(経年で) ⑧ 前川溢水対策事業費は、実施計画によると29年度70,000千円、30年度105,860千円、31年度10,800千円。その予算内訳と事業内容。 ⑨ ⑧の事業費は、例えばゲリラ豪雨によって護岸補修工事の件数が増えた場合、浚渫に充てられる費用が減ることになるのか。浚渫に充てる費用が足りなくなるという影響がないように予算立てすべきと考えるが、いかがか。 ⑩ 3月議会代表質問の市長答弁で、溢水を繰り返す前川について、「都市計画道路3・4・10号線や化成小学校校庭への一時貯留施設整備に向けた検討を進めているところ」とあった。検討の進捗は。 ⑪ 一時貯留施設整備費用の想定額。 ⑫ 本整備を実施する場合、国・都の補助は受けられるのか、財源は。

10 村山 淳子

- ⑬ 抜本的対策の一時貯留施設整備には、多額な費用が想定される。整備に向けて基金を創設して、確実に推進してほしい。いかがか。

2. スタートした「残薬バッグ事業」について

国保の医療費削減につながるとして、H.28.3月議会の一般質問で、「『節薬（せつやく）バッグ運動』で医療費のムダをなくそう！」として提案した「残薬バッグ事業」が、8月からスタートしました。

「残薬バッグ事業」は、残薬を有効活用することで、薬も無駄にせず、医療費の無駄をなくせる点と、薬を処方通り服用できているかの確認ができる点です。それは、双方にとってメリットがあります。

今後の更なる展開を期待して、当市でスタートした「残薬バッグ事業」の内容について、以下伺います。

- ① 「残薬バッグ事業」の対象者、アプローチの方法など具体的な事業内容と進め方。
- ② 期待する効果。
- ③ 今後の展開として、国保だけでなく、関連する後期高齢者医療の医療費削減等にも効果があると考えます。見解は。
- ④ 市民は、いずれ国保加入者になる可能性が高い。市民の健康維持・健康増進という意味で、残薬の有効活用と正しい薬の服用を推進する運動として、展開できないか。見解は。